

平成31年度社会福祉法人にしあがつま福社会事業計画

はじめに

平成30年度の福社会の事業計画は「にしあがつま福社会活性化委員会」の基本方針を目標に取り組んできました。

外に対しては、地域の理解を高めるための情報提供として、広報紙の作成やフェイスブック・ホームページの立ち上げを行いました。

内に対しては、新たな役割分担の明確化として組織の再構築に取り組んできました。又、新たなキャリアパスの明示と人事考課の構築として教育訓練等計画の作成や考課手法の再検討をしました。

まだまだ検討の余地は大いにありますが引き続き取り組んでいく必要があると考えています。

その中で長年検討課題でありましたH棟の有効利用としては4月からは障害者の緊急時短期入所として利用することになりました。

平成31年度は引き続き「にしあがつま福社会活性化基本方針」に基づき取り組んでいきたいと考えています。

昨年度の反省の中では、ソフト面での不安定が直面されました。恒常的な職員不足の中、職員の入院や休養が多く出てしまい入所の制限も余儀なくされてしまう期間もありました。

今後は更に職員の定年の増員に加え社会的にも福祉職員の就職希望者の低迷という現実もありより対策が必要と懸念されます。

<にしあがつま福社会活性化基本方針>

外に対して [利用者をより意識したサービスの提供]

- ・より住民に寄り添った地域包括ケアの構築
 - ①現サービスの維持と向上
 - ②看取りの普及、啓発活動
 - ③地域の理解を高めるための情報提供
- ・より充実したサービスの提供と、新しいサービスの検討
 - ①利用者や家族に耳を傾ける
 - ②各種サービス間の連携と営業展開
 - ③グループホーム等の検討
- ・より自立した法人への成長と地域貢献
 - ①経営健全化
 - ②財務状況の情報公開
 - ③地域貢献事業

内に対して [各々の役割を意識した職場づくり]

- ・新たな役割分担の明確化
 - ①理念の浸透
 - ②組織の再構築
 - ③職務分掌の再検討
- ・新たなキャリアパスの明示と人事考課等の構築
 - ①教育訓練計画の作成
 - ②人事考課の手法再検討
 - ③学校等と連携した人材確保計画
 - ④奨学金の再検討
- ・より意思の疎通を高めた協力体制の構築
 - ①職員のコミュニケーション力の向上
 - ②行政との連携
 - ③関係機関との連携

I、特別養護老人ホームからまつ荘運営方針

(介護老人福祉施設・短期入所者生活介護・介護予防短期入所生活介護)
(基準該当 障害者短期入所)

(目標)

- 1、職員教育等による介護サービスの質の向上
- 2、施設稼働率の改善等による利益の向上
- 3、H棟において障害者の短期利用入所を行う

(取組)

昨年度未実施であった、満足度調査を実施し現状の把握を行うと共に新たに内容を刷新した各種研修、委員会に置いてより全職員が意欲的に働く仕組みを通じて、サービスの向上につなげられるように努める。

又、各自職員の自己健康管理には留意するとともにやむを得ない職員不足が生じた場合は全職員間の協調協力により利用者サービスの向上に努めていく。

<からまつ荘の施設稼働実績>は

平成28年度：73.7人 / 1日

平成29年度：73.6人 / 1日

平成30年度：71.7人 / 1日（4月～1月の10ヶ月間）

平成30年度においては、これまで目標としていた全国平均の75.5人にはいずれも届いていない上、一昨年に比べ1日当たりの利用者数が2人少ないという最悪の状況となる。要因としては入院者が一日平均6.1人（昨年度は4.16人）と大幅に増えたこと及び退所になってからの空床の次期入居者決定までに時間がかかっていることまた、職員不足により入所の調整をしてきた事が考えられる。

今年度の目標値としては前年度の目標に挙げた

74.5人 / 1日を最低としていく。

その目標対策として

第一に、入所判定委員会を適宜実施し、空床が出来たら1～2週間以内に新規入所に繋げられる様優先的に取り組む。

第二に、職員の健康管理に強く留意するとともに利用者の日頃の健康管理もより重視する。

第三に、病院との連携を密にはかり入院先に状況を確認する（週に一回以上）と共に家族にも報告相談し、連携を図り退院の方向を進めていく。

<短期入所の稼働実績>に関しては、

平成28年度：7.8人 / 1日

平成29年度：8.1人 / 1日

平成30年度：8.5人 / 1日（4～11月）となっている。

H棟の有効活用利用による影響（実質10床を活用）により短期入所調整が大変複雑になる中、昨年度の目標値（8.5人/1日）は達成された。

今年度の目標値としては昨年度よりやや多い

9.0人 / 1日としていく。

その目標対策として

長期利用者や定期利用者のベッドを確保するとともに男女別の空き部屋、空ベッドの状況を見ながら、地域居宅ケアマネ等に情報提供を行っていく。

II、からまつ荘通所介護事業所

(通所介護事業・日常生活支援総合事業・長野原町身体障害者デイサービス事業)

<目標>

- 1、一日が楽しく、明るく、安全で満足して頂けるサービスを行います
- 2、ご家族に信頼して頂き、介護の悩みを話し合える関係を築きます
- 3、チームワークを大切にします。

<取組>

① 通所事業

- ・年間行事、余暇活動、レクリエーションを通して一日充実した活動を行う
- ・個人の目的、目標、能力にあった支援を行う
- ・すべてにおいて安全を第一にサービスを行う
- ・一日の利用者を増やす

② 総合事業

- ・目的に合ったサービスの提供を行う
- ・安全、安心に一日過ごしていただく
- ・家族、職員、地域の人と共に支援し暮らしていけるようにする

③ 長野原町身体障害者デイサービス事業

- ・一日安全に過ごしていただく
- ・楽しみを見つけ共に活動を行う
- ・地域の人と交流が持てるよう相談、支援を行う

III、からまつ荘訪問介護事業

(訪問介護事業・日常生活支援総合事業・障害福祉サービス・ホームヘルプサービス事業)

(目標)

利用者様の立場になり考え、利用者様が安心して自宅で生活できるよう支援します。

(取組)

1、訪問介護、総合事業

利用者様個人を理解し個々のサービスを充実する
自立支援に向けてより良いサービスの徹底を行う

2、ホームヘルプサービス事業(長野原町委託事業)

担当者との連携を取りサービスを向上する

3、障害福祉サービス(訪問)

訪問者のスキルアップを図り、難病患者等にも対応していく

IV、からまつ荘居宅介護支援事業

(目標)

本人、家族に寄り添い、地域及び医療と連携し在宅での生活が可能な限り継続できるように支援する。

(取組)

- 1、本人、家族に寄り添ったケアマネジメントを行う
- 2、主治医、専門職、地域との連携により自宅での看取りにかかわる
- 3、本人、家族からのサービスに対する評価を各事業所に伝える
- 4、利用者総数は全体で月/100人以上を維持する。

V、障害福祉サービス事業所「やまどり」

1、工賃アップ

やまどりにおける総売り上げは、H28年度が約280万円、H29年度が約300万円でした。利用者への工賃は、平成28年度、29年度共に月平均、約1万円弱で推移しています。H30年度においては約280万円程度と予想され、工賃も平均1万円程度と考えています。これは、主な収入源であります草津温泉の饅頭の箱折り作業がやや減少していることが一因と考えています。

H31年度は、工賃につながる計画として、

- ① 銀星社（取引業者）に量を増やしてもらえるか相談する。（他の店舗にも納品できるか等）
- ② 銀星社以外の所で箱折り作業が受けられるか検討する。（例えば、近隣ドライブイン等々にも営業に回る）
- ③ 草津町の楽泉園の清掃作業以外の作業開拓（行政に相談する。特に冬場の作業）
- ④ 営業活動（地域の人にやまどり事業所の紹介。職員による知人紹介を行い自主製品の販売拡大等を目指す）

その他の計画

- ・H31年5月～10月に草津町の栗生楽泉園内の公衆トイレ掃除（施設外就労事業として2～4名の利用者対象）
- ・北軽井沢、野菜農家の袋詰め作業
- ・にしあがつま福祉会のゴミ処理運搬（現在、某会社に委託、週3回程度 月2.5万円）

2、家族との連携

やまどりの風通し（コミュニケーション）が、もっと良くなればと言った声を聴きます。家族と職員が歩調を合わせて進むことは、利用者の皆さんの生活の質の向上にも繋がるものと思います。家族と会う機会を増やし、お互い忌憚なく話合える関係を築いていきたいと考えています。

- ① 保護者との懇談会を年に4回開催（4、7、10、1月）
- ② 個別支援計画を年に1回、家族出席のもと開催している。次年度は中間評価（基本的には6か月毎だが、状況に応じ短いスパンもありうる）の時にも来所の機会を設け意見を聞きたい。

3、職員、資質向上

職員の資質向上は、利用者の皆さんが穏やかで、充実した生活に結び付くと考えます。にしあがつま福祉会として職員研修計画を立案し職員のレベルアップを図りたいと考えます。

- ① 個々の職員に合わせた研修計画の作成
- ② 外部研修終了後は他の職員も学べる様伝達研修を行う。

VI、地域活動支援センター「すきっぷ」

- （目標）
- ・必要とされる方に多く利用してもらう
 - ・安心安定し、落ち着いて生活が送れる。
 - ・地域に密着した施設運営
- （取組）
- ・啓蒙、PR、利用促進
 - ・創作活動、生産活動、レクリエーション活動の充実
 - ・地域社会への積極参加
 - ・個々の利用者の特性に応じた支援の充実